

企画展

「有田川中流域の仏教文化」が
開催されます

有田川町二川の安楽寺に伝わる多宝小塔は、南北朝時代（14世紀）に建立された優美な姿を見せる小さな塔で、重要文化財に指定されています。平成27年度から修理を行ってきましたが、このたび無事竣工いたしました。その修理完成を記念して和歌山県立博物館では、1月21日（土）から3月5日（日）までの会期で、企画展「有田川中流域の仏教文化―重要文化財・安楽寺多宝小塔修理完成記念―」が開催されます。この企画展では、初めて多宝小塔が寺外で公開されるところにも、有田川町の貴重な文化財が多数展示されます。

修理前の安楽寺多宝小塔は、正面中央だけに扉がある姿でしたが、修理によって四面全てに扉と連子窓れんじまどがある建立当初の姿よみがえりました。また、安楽寺多宝小塔は、大きな多宝塔をそのまま縮小して細部まで再現している点に大きな特徴があり、塔内には胎藏界たいざうかいの大日如来だいにち坐像ざぞうが安置されています。



大日如来坐像
(総高 24.8cm)

この塔に安置さ

れている大日如来

坐像についても、

今回の修理に伴っ

て初めて調査が行

われ、塔よりも古い、平安時代後期にさかのぼるこ

とが判明しました。その姿は宝冠をかぶり、腹前で

定じょういん印いんを結んで蓮台れんだいに座る胎藏界の大日如来です。

蓮台を含む像の全てをヒノキの一木から彫り出した

もので、本来は他の大きな仏像の光背に取り付けら

れていたものが、安楽寺多宝小塔を建立した際に、

その本尊として転用されたと考えられます。

大日如来には、金剛界と胎藏界の二種類の姿があ

り、多宝塔の本尊としては、その大半が金剛界の大

日如来像（胸の前で智拳印ちけんいんを結ぶ姿）です。ただし

高野山上の壇上伽藍だんじょうがらんに建つ大塔の場合は、空海の教

義に基づいて胎藏界の大日如来が選択されていま

す。安楽寺多宝小塔も、この高野山のシンボルとし

ての大塔を移植するという思想的背景があったので

はないかと考えられます。安楽寺多宝小塔は、高野

山による莊園経営が軌道に乗るころのものであり、

高野山が自らの宗教権力を象徴するシンボルとして

この優美な姿の塔を人々に示したのではないでしょ

うか。ぜひともこの機会にご観覧ください。



修理が完成した安楽寺
多宝小塔(総高 209cm)